

# あいち地球温暖化防止戦略2020の全体像

参考資料1

### 戦略策定の趣旨

【新たな戦略の必要性】

- 低炭素社会実現の必要性
- ・ 増え続ける温室効果ガス
- ・ 現実になりつつある気候変動

国際社会や国の動き

- ・ 気候変動枠組条約に基づく国際交渉の進展
- ・ 次世代エネルギー・社会システム実証事業や再生可能エネルギーの固定価格買取制度など低炭素化施策の実施

【基本事項】

- ・ 目標年次 2020年度

### 現状と課題

【温室効果ガス排出状況】

2008年度は1990年度比1.8%増加

【部門別の課題】

- 産業部門(工場等)  
生産工程の改善など一層の効率化、  
中小企業の温暖化対策推進
- 業務部門(オフィス・店舗等)  
床面積当たりのエネルギー消費量の削減
- 家庭部門  
世帯当たりのエネルギー消費量の削減
- 運輸部門  
公共交通機関の分担率の向上、  
次世代自動車の普及等

### 戦略が目指す愛知の姿

～環境と暮らし・産業が好循環する持続可能な愛知

#### 2050年頃の姿

【暮らし】

- ・ 太陽と自然の恵みを直接利用する快適な住宅が普及
- ・ 環境を意識するライフスタイルが定着

【地域と交通体系】

- ・ 歩いて暮らせるコンパクトな街が実現
- ・ 自動車は電気駆動が主流に

【産業】

- ・ モノづくり産業は基幹産業として新たな低炭素技術を開発
- ・ 高齢化や低炭素化に伴う多様なサービス業が伸張

【エネルギー供給】

- ・ 太陽光や風力、バイオマスを広く利用
- ・ 熱と電気を地域で無駄なく活用するスマートエネルギーネットワークが普及

【温室効果ガス排出量】 2050年頃に1990年度比70%程度削減

バックカスティング  
(2050年の姿から2020年の姿を描く)

7,701万 t-CO<sub>2</sub> (1990) | 7,839万 t-CO<sub>2</sub> (2008) | 6,545万 t-CO<sub>2</sub> (2020) | 2,460万 t-CO<sub>2</sub> (2050)

(2020年度)削減目標 1990年度比15%削減

### 地域の特性

- 【恵まれた再生可能エネルギー源】
  - ・ 豊富な日射量
  - ・ 都市や農村の未利用バイオマス資源
- 【モノづくりで培った低炭素化技術】
  - ・ 次世代自動車、蓄電池、燃料電池、高張力鋼板、炭素繊維など
  - ・ 次世代エネルギー・社会システムの実証
- 【自立・分散型の都市構造】
  - ・ 自立性の高い都市が分散的に存在
  - ・ 都市を取り巻く多様な自然
  - ・ 高い自動車交通分担率
- 【県民・企業の環境意識】
  - ・ ～愛知万博・COP10の成果の継承～
  - ・ 530運動発祥の地
  - ・ エコカー、太陽光発電の全国一の普及

反映

### 施策の展開

東日本大震災後の課題

- 再生可能エネルギーの導入促進
- 省エネルギーの一層の促進
- 分散型エネルギーシステムの構築

反映

### 2020年に向けた取組

取組方針	主な重点施策
<b>日々の暮らし</b>	再生可能エネルギーと省エネ化によるゼロカーボンライフへの挑戦 太陽と自然の恵みを活かすゼロカーボン住宅の普及 再生可能エネルギー等の利用拡大 次世代自動車等先進エコカーの導入 新エネルギー技術の実用化推進とスマートグリッドの先駆的導入
<b>モノづくり</b>	事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制 「食」をめぐる低炭素化 業務用建築物の環境負荷の低減 低炭素社会に貢献する製品供給拡大
<b>地域基盤</b>	歩いて暮らせる集約型まちづくり 低炭素な地域交通ネットワークの構築 低炭素な分散型エネルギーシステムの展開 ヒートアイランド対策 森林整備と県産木材の利用拡大
<b>県民意識</b>	CO <sub>2</sub> の「見える化」 環境負荷の少ない商品やサービスの購入 地域における地球温暖化防止活動の活性化と環境学習・環境教育 産・学・行政が連携した世界をリードする低炭素地域づくりへの取組

## 愛知県内の温室効果ガス排出量の現状と将来推計

(単位 = 万t-CO<sub>2</sub>)

部門 <sup>1</sup>	1990年度	2008年度	(1990年度比)	2011年度	(1990年度比)	2020年度推計 現状推移ケース <sup>2</sup>	(1990年度比)	2020年度推計 戦略推進後	(1990年度比)
産業	4290	3909	-8.9%	4062	-5.3%	4505	5.0%	3898	-9.1%
業務	839	1057	26%	1134	35%	1309	56%	711	-15%
家庭	732	938	28%	989	35%	898	23%	394	-46%
運輸	1104	1183	7.1%	1111	0.6%	1215	10%	974	-12%
その他	737	753	2.2%	760	3.1%	712	-3.4%	569	-23%
合計	7701	7839	1.8%	8056	4.6%	8639	12%	6545	-15%

1 部門別の値はCO<sub>2</sub>排出量(CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスは「その他」に含まれます。)  
2 2020年度の産業・人口を推定し、エネルギー消費原単位を現状で固定したケース(端数処理のため合計が一致しない場合があります。)

### 戦略の推進

- 推進会議等の開催
- 推進大会の開催
- P D C A の実施

### 主体別役割

- 県民：ライフスタイルの改善、エコ製品の選択・導入
- 事業者：自らの排出削減、従業員等への働き掛け、低炭素型製品の供給
- 大学・NPO：技術的・社会的解決策の探求、科学的知識の普及、人材育成
- 温暖化防止推進員・センター：市町村等と連携した啓発、地域での活動支援
- 県・市町村：事業者や県民の対策推進、主体間連携の推進、対策の率先実施